

区長は指導力を発揮し メリハリのついた行政サービスを展開せよ

民主・区民会議 松田 哲也 議員

区長は、平成20年度と比べ平成21年度は約60億円の歳入不足があったが、それでも高齢福祉費や健康福祉費はほぼ前年並みの予算をつけ執行した旨の答弁をされた。

それではどこを削ったのかさらに精査をすると、平成20年度に比べ総務費はマイナス53億円、都市整備費はマイナス49億円、合わせて約100億円のマイナス決算で、健康福祉費はプラス24億円、区民生活費はプラス19億円、合わせて約40億円のプラス決算。差し引きするとちょうどマイナス60億円。この数字だけ見ると非常にメリハリがついているようだがその中身を見ると、総務費の減はそれまでの施設整備基金の積み立てができなかったことによるものが大きく、都市整備費

の減はそれまでの上目黒市街地再開発などが終了したことによるものであり、逆に健康福祉費の増はスマイルプラザの整備時期が来たためであり、区民生活費の増は国の定額給付金の支給があって数字上36億円プラスされた結果であり、結果的にそうっただけだ。

また予算編成に際して区長は、私が増額しろとか減額しろと言ったら知恵がないし独裁的だし、内部で事実上の事業仕分けが行われている旨の答弁もされた。区長の強いリーダーシップと外部の事業仕分けの導入で、箱根保養所や外郭団体などの事業を見直し、最小限のコストで最大限の行政サービスを展開していくことを求め、賛成の討論とする。